

今回の企画展示では、平安時代から鎌倉時代の仏像を展示します。  
この仏像を現代まで守り伝えた寺院の歴史とともに仏像の魅力やみどころを紹介します。

序章

# 文化財の仏像を 後世につなぐ

寺と本尊を守る仁王像は、  
筋肉隆々、力強い体格をしています。

霊山寺は平野を見下ろす山の中腹にある寺です。室町時代の建造物である山門（霊山寺仁王門【重要文化財】）には、平安時代～鎌倉時代の作とされる高さ2m以上の金剛力士立像（仁王像、県指定文化財）が伝わります。令和5年度から修理が行われ、かつての姿となった金剛力士像（阿形、吽形）を寺外で初公開します。



木造金剛力士立像（県指定文化財 霊山寺）の修復作業風景（吉備文化財修復所）

第1章

## 久能寺とその仏像

有度山に創建された久能寺は、最盛期の平安時代末期～鎌倉時代初期には三百以上の僧坊を擁する大寺でした。海に面した久能寺は、観音をまつる寺で、舞楽などの芸能が栄えました。また、禅僧の聖一国師（円爾）も久能寺と関わりました。このように歴史豊かな久能寺とそこに伝わる仏像について、紹介します。



木像菩薩坐像（市指定文化財 鉄舟禅寺）

きりっとして  
目力がある仏像です。

髪を結び、冠を付けているのが  
特徴の仏像です。



木造文殊菩薩坐像像内納入品  
「大聖文殊種子一万株卷子」（鉄舟禅寺）



木造宝冠阿弥陀如来坐像（県指定文化財 一乗寺）

第2章

## 霊山寺とその仏像

毘楼勒又立像は鎧をまとい剣を手にして、本尊である観音を守り、  
餓鬼（鬼）を踏み、悪をこらしめる勇ましい姿です。

観音の霊場である霊山寺には、本尊である千手観音を守る二十八部衆（そのうち二十六体）の立像が伝わります。台座などにある修復の銘によれば、二十八部衆が麓の村（大内村）の人びとの信仰を集めて、鎌倉時代・室町時代・江戸時代に繰り返し修理されてきました。今回は二十八部衆のうち八体を展示します。



木造二十八部衆伝毘楼勒又立像（県指定文化財 霊山寺）



第3章

## 新光明寺の仏像

頬が張ったきりとした顔立ちの仏像です。  
優しい顔立ちの一乗寺の仏像と見比べてみてください。

新光明寺は、かつて静岡市中心市街に境内地があり、重要文化財の阿弥陀如来立像を伝えています。阿弥陀如来立像は、慶派と呼ばれる仏師の作風とされています。慶派の仏師は鎌倉幕府北条氏の勝元の伊豆で仏像をつくっており、慶派が静岡の仏像制作に携わったことが考えられます。令和元年度の修復後、寺外初公開です。

木造阿弥陀如来立像  
（重要文化財 新光明寺）



第4章

## 建穂寺とその仏像

仏像の手には様々な形があります。  
この仏像の手の形は、  
人々に仏の教えを説く姿を示しています。

建穂寺は駿河国府と関わりがあった国分寺・国分尼寺ともつながりがありました。さらに禅僧の大応国師（南浦紹明）が学んだ寺でもあります。寺は明治の廃仏毀釈で廃寺となり、その後、焼失しましたが、地元の人々の手で運び出された仏像は焼失を免れました。



木造伝阿弥陀如来坐像  
（市指定文化財 建穂自治会）

終章

## 地域で守る 文化財

静岡市には、仏像をはじめ様々な文化財が伝わっています。文化財は「地域の宝」として、人々の手で守られることで、後世へと受けつがれます。その例として、霊山寺と建穂地域における仏像の保存活動を紹介합니다。



修理のため、金剛力士立像を運び出す様子



建穂地域の人々が建穂寺観音堂の仏像を紹介する様子